

生活創造しんぶん第7号

平成15年9月

編集・発行

県立姫路生活科学センター内
生活創造応援隊

平成15年度生活創造大学姫路消費生活セミナー開催

日々のくらしは豊富な商品やサービスで便利になった反面、心の荒廃、資源問題や食糧自給率の低下など様々な課題が山積しています。大きく変貌する経済社会に的確に対応できる生活基盤の確立と、真に豊かなくらしをめざして、課題やこれからの家族、地域社会、制度のあり方を具体的に考えていく必要があります。



姫路消費生活セミナー第1回目は「消費者問題は今～安全・安心なくらしを求めて～」の演題で(財)関西消費者協会理事長 林 郁先生に、次々と発生する消費者問題を検証いただきました。2002年の一年間でも消費者関連の出来事は数多くありました。

表示に関することでは、食品の偽装表示・生命保険の契約と給付をめぐる問題

安全に関することでは、輸入野菜の違法農薬使用・無認可の添加物使用の問題

契約に関することでは、内職商法をめぐるトラブル・退去時の敷金返還をめぐる問題

金融に関することでは、出資金投資商法をめぐる・ヤミ金融被害をめぐる問題

なぜ、消費者問題が発生するのか？では、企業と消費者間の情報・交渉力の較差、事業者の利益優先によるモラルの低下、消費者パワーの不足が考えられます。



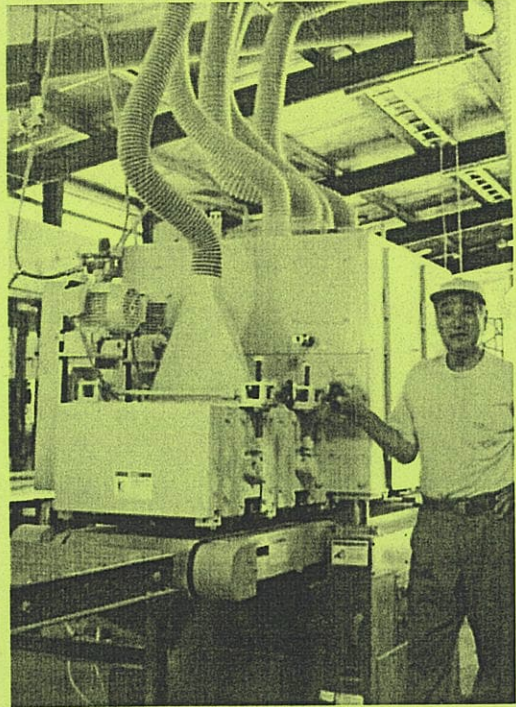
これからの消費者のパワーアップのためには、価値ある情報の共有と、知識(情報)と行動の一致、地域を中心とした更なる消費者活動の活性化を唱えていきたいと思います。

シックハウス対策に『がっぱい四つ』に取り組む人

建築用材として植林した杉、ヒノキの森林は成長に合わせて間伐を行ないます。以前は工事現場の足場丸太に使用されていましたが、足場板が鋼鉄製に替わり、間伐した丸太の出荷先が無くなってきました。手間賃の高騰も追い打ちとなり、間伐を行なわず、森林は『モヤシ』のような樹木となりました。森林のCO₂の吸収力も低下しています。間伐材の有効的な利用法があれば、森林も生き返ります。

近年、住宅の購入や借用、新築、リフォーム、家具の購入、シロアリ駆除などをきっかけに、その後室内にしていると「頭痛」「めまい」「咳が出る」「息苦しい」「目がチカチカする」など体調が悪くなるシックハウス（シックハウス症候群）の方が多数おられます。

そんな中でシックハウス問題の解決のためにも、間伐材の有効利用に、と着目したのが内装用羽目板加工です。

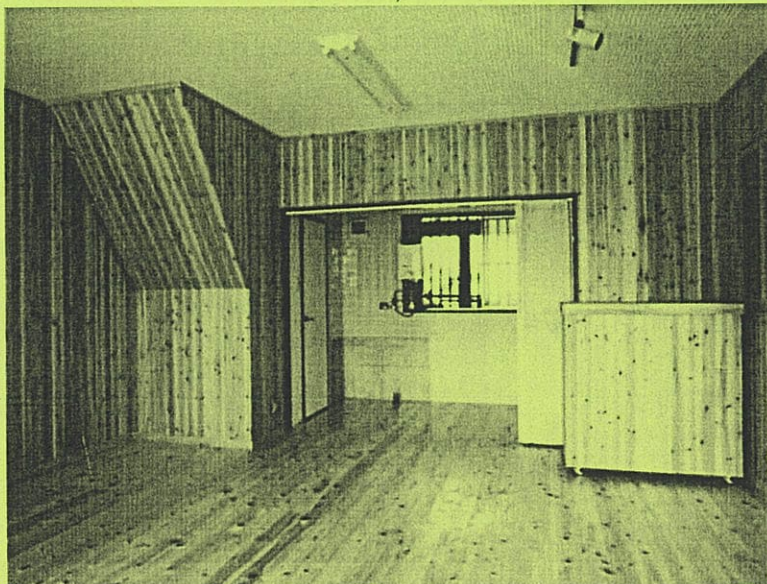


商品名は『杉羽目板』ほんまもんの壁内装材です。

この間伐材加工の事業を立ち上げた東播加工の荒川さん（ ）は、応援してくれる森林業者と、助言をしてくださるお医者さんがおられて、機械導入に踏み切ったと話して下さいました。

昔の日本家屋ではシックハウス（シックハウス症候群）などは無かったように思います。隙間がもたらす自然な換気機能が有効だったのでは・気密な部屋は体に良くないですね！

床面積に対して天井は1倍、壁は3～4倍ですから壁に焦点を合わせて改造計画と施工のおすすめ！は言うまでも無く、換気計画も取り入れます。



内装用羽目板『杉羽目板』を使った新築・リフォーム等を請け負われた大工さんにお聞きますと、節（ふし）がある杉板は、木目も美しくあたたか味があり、湿度の調節も自然となされているようだとか・・・多くの施主に喜んでいただいていますと言われました。

余談になりますが、我が応援隊の中にも洗面所とトイレの壁板を内装用羽目板を使ってリフォームした方があり、「夏は涼しく、冬は暖かくて、大変居心地がいいですよ！

トイレも洗面所も快適な場所になっています！」と証言していただきました。

皆さんも木の香りとぬくもりを思い出してみてください。

（応援隊 三木 勝）

夢前名産 竹炭の魅力

ゆめさきの森公園(8月9日にオープンした)で、作業中の「竹炭の会」の田路幾男会長と同会員の方を訪ね、会長にお話をお伺いしました。

「竹炭を作るきっかけは、“村おこし”になればということですが、『健康推進する会』の会長をしていたこともあり、人々の健康づくりを願って京都大学の野村先生に話を聞き平成6年から製作を始めました。その当時、兵庫県下では2ヶ所しか竹炭を焼いてなく、秋田県・北海道・奄美大島などから多くの注文がありました。

竹炭には小さな孔がたくさんあいているため、空気清浄効果・マイナスイオン効果・アルカリ性効果・遠赤外線効果・酸化防止効果など物理的な作用で優れた効果を発揮します。

低温(400℃~600℃)で焼いた黒炭は、孔がより多くあいているので消臭効果に優れ、高温(700℃~1000℃)で焼いた白炭は、お風呂に入れると保温効果・美肌など健康維持に役立ちますし、お米

を炊く時に使うとふっくら美味しく炊けます。虫よけ(アリ、ムカデなど)にも効果があり、金魚鉢や花瓶に入れておくとミネラルが溶けて、水がくさらず臭いもなく生き活きとして優れた水の浄化作用を発揮します。

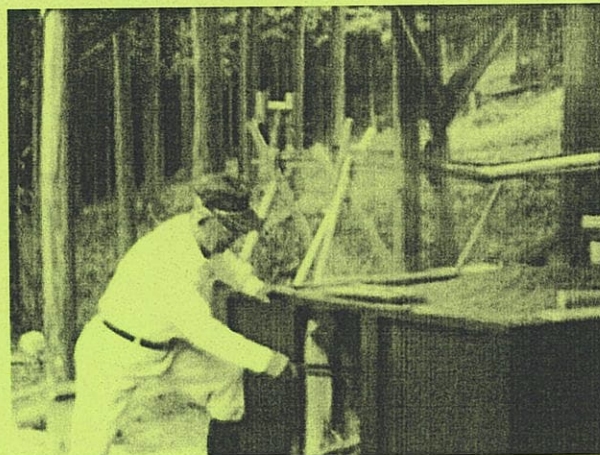
又、竹を焼くときに立ちのぼる「煙」からとれる液体(竹酢液=竹の精)は、殺菌性があり不思議な効果が得られます。

工芸用としてもインテリアにも、幅広く活用している方々もいらっしゃいます。

今まで竹炭を作ってきて嬉しかった事は、各地からお礼状をいただいたことです！」

と明るくお話くださいました。

自然と素材を工夫して竹炭を作る人々の、英知とその努力の偉大さを感じます。同じ目標に向かって作業を進められている皆さんの真剣なお姿の横を、森の風がさわやかに通りすぎて行きました。(応援隊 谷口 昭子)



竹炭の使用方法・お問い合わせは

「竹炭の会」

～ステキな音楽で男女共同参画～



男女共同参画社会の普及啓発活動として、神崎町婦人会と中播磨男女共同参画推進員会議の共催でトーク&コンサート「ステキな音楽で男女共同参画」がグリーンエコー笠形の農村環境改善センターで開催されました。

阪神淡路大震災の復興・支援を通して、危機に遭遇した時の家族のあり方など、体験をもとに「家庭の中のパートナーシップ」と題して、兵庫県理事 清原桂子先生の講演を聞かせて頂きましたのでご紹介したいと思います。



思わぬ危機の時こそ、家族の絆を深めたいものにするように努めるべきであり、家族というのは体験と時間と空間を共有し、何かを一緒になって取り組んでいくことが一番大切になってきます。

又、夫婦の関係を夫は外に出て働き、妻は家事と育児に専念するといった様に、役割を固定的に考えている家族ほど、震災というような危機には対応しきれず、心の溝が生じてしまう事に成り得ます。

そして不景気によるリストラの危機が押し寄せる今日において、夫婦の分担を杓子定規に考えず、お互いを認め合い、問題に柔軟に対応してこそ、家族がひとつになり何事でも乗り越えられると言われました。

でも毎日の生活は、家族の中だけで煮詰まってしまっていてはいけません！

例えば家庭と会社しか知らない夫では、退職後地域に溶け込めず、戸惑うことにもなり、また子ども達の成長過程でも、地域社会にどれだけ多くの人間関係を持つことが出来るかによって、その子の許容度の大きさに関係してくるようです。

地域にたくさんの人間関係をつくりだすためには



- ① まず自分がやる（動く）
 - ② 意見等の違いを認める
 - ③ 間違いはやり直す
 - ④ 思いを伝える
 - ⑤ 今が楽しい（楽しく行動する）
- と締めくくられました。

今まであまり問い直しもしなかった家族のあり方を考えさせられました。



（応援隊 井上 ひとみ）

「人を大切にし 心の豊かさを育てる環境美化」にふれて

福崎町からこの度応援隊に新しく参加しました小國冷子です。

福崎町「北浦谷ホタルの里づくり」をされています埴岡義一さんをお話を聞かせていただきました。埴岡さんは「人を大切にし 心の豊かさを育てる環境美化」を目標にいろいろなボランティアに励まれておられます。昨年2月頃から地域の子供達に向け環境を考える教育の一環として、福崎町東田原の北浦谷地域の谷川約1km間をホタルの飛び交う場所にしようと環境美化活動を始められました。

今までに延べ100名の方々(加治谷地区の全戸から各1人と



地域の耕作者、福崎町内にある近畿福祉大学の学生さん達)の協力を得て作業が進んでいます。米のとぎ汁をそのまま川へ流す事の害が大きかった事が発端で、それならば発酵させてからと、有効微生物群(EM菌)の発酵液を使って川の水の浄化にご苦労をされています。今までに川に投じたEM菌の量は10リットルタンクで50個分程です。山すそを流れる川ですので、川沿いの草刈りも、刈った草の後始末も大変な作業です。

今年は未だ整備途中で、皆さんで来年のホタルの飛び交う日を心待ちに汗しておられます。

私も兵庫県こころ豊かな500人委員会のご縁で、少しだけ作業にも参加させていただき、家庭排水の問題や生ゴミの処理についての勉強会に出席させていただきました。

心に余裕のないこの時代にあって、子ども達のこと・環境のことをこれほどに考えて行動される埴岡さんのお人柄に魅せられてしまい、その出会いに感謝、感謝です。

これからも福崎町から輝いている人・グループの情報を発信していきます。

(応援隊 小國 冷子)

～親子環境教室～

市川町消費者の会は、次代を担う子ども達に環境問題へ関心を持ってもらい、物の大切さを考え直してもらうために、毎年夏休みを利用して「親子環境教室」を開催しています。今年は「いつまでも美しいふるさとの山と川」をテーマにしています。

その一環として子ども達と一緒に、環境にやさしい石鹸作りにチャレンジしました。子ども達は熱心に興味深く取り組んでくれました。



次に家電リサイクル工場(松下エコテクノロジーセンター)にお伺いしました。会場ではクイズ形式でのリサイクル教室もあり、作る→使う→戻す→生かす(再生する)循環型のシステムを学習させていただきました。工場内では冷蔵庫・洗濯機などが次々と分解され、種類別に処理されて、その材料で新しい製品となって変化するのを体験し、子ども達の環境問題への第1歩が踏み出され、リサイクルへの関心の深まりが得られたのではないかと思います。

(応援隊 堀越 真弓)

夢が味く 夢が味かせ

～夢前町「子どもふるさと体験教室」に参加して～

夢前町教育委員会では学校週5日制の実施にともない、子ども達に土・日を有意義に使ってもらおうと、地域の伝統文化、歴史、文化財、祭り、古くから伝わる伝承遊びなどを、地域の住民とのふれあいの中で、子ども達に伝えていくために「子どもふるさと体験教室」を実施しています。本年度は、下記の教室がおこなわれます。参加して私たちの住む夢前の良さを発見しましょう。



- I 夢前伝承遊び体験教室 “竹のぬくもりを感じよう！手作りのおもちゃで遊んでみよう！”
- II 夢前を詠む俳句体験教室 “ふるさとのよさを言葉にしよう！”
- III 夢前の和太鼓体験教室 “太鼓の響きを全身で感じよう！”
- IV 夢前の置塩城跡体験教室 “置塩城跡発掘調査の現地説明が受けられる、貴重な体験教室！”

平成13年より発掘調査が開始され、国の指定文化財に指定された「ゆめさき置塩城」の由来



標高370mの置塩山上に散在する郭群、それが置塩城跡です。中世の山城跡としては超一級のものといわれ、遺構や出土品からは当時の隆盛を想像する事ができます。

置塩城は、藤丸城ともよばれ、赤松家の本城でした。文明元年(1469年)に、赤松政則によって築城されたと言われていますが、現在残る遺構は、戦国時代末期のものと考えられます。



調査により、瓦や陶磁器の破片、灯明皿などの生活用具が出土し、当時の人々の暮らしが判る貴重な遺構も検出されました。

10月18日午後1時より置塩城跡発掘調査現地説明会が、
10月19日午前9時より全国山城サミット・シンポジウム、置塩城まつりが開催されます。

参加自由です。どうぞ多数お越しください。

私は夢前明神太鼓保存会に属し、昨年度の和太鼓体験教室に参加しました。

和太鼓は目と耳と全身でリズムを覚え演奏します。バチをあやつる楽しさ！たたく強さの強弱で音色を表現する和太鼓演奏の醍醐味を一人でも多くの子供達にふれて体験してほしいです！

昨年の和太鼓体験教室を体験した子供達のうち4人が夢前明神太鼓保存会の一員として現在も練習に励み、晴れの舞台に立っています。



今年の和太鼓体験教室は11月22日・29日に古知小学校体育館で行ないます。

和太鼓体験教室でお待ちしております！

(応援隊 布田 清美)

それぞれの内容・開催日・時間・場所のお問い合わせ先は
夢前町教育委員会内 夢前町ふるさと学舎推進委員会

地球温暖化防止に関する研修会

このたび、昨年度に中播磨県民局で策定された「中播磨地域におけるグリーンエネルギー普及促進の基本方針」のプロジェクトに基づく研修会の第1回目が姫路生活科学センター集会室で開催されました。

この研修会は地球温暖化防止の取り組みに精通した地域の核となる指導者を養成するねらいで全7回シリーズで開催されるものですが、どなたでも参加できます。

第1回はテーマ「地球温暖化とエネルギー対策の現状と課題」で近畿経済産業局エネルギー対策課松村課長補佐から世界のエネルギー需給の現状や見通しや、快適さ・利便性を追求するライフスタイルの浸透により家庭・業務といった民生と運輸部門を中心に

大きくエネルギー消費が伸びたことなどについてデータを示して詳しい説明がありました。

今後のエネルギー政策としては、需要面では「省エネルギーの徹底」、供給面では「太陽光発電、風力発電、廃棄物発電など新エネルギー（再生可能エネルギー）と原子力」

の導入促進と「化石燃料の転換」を推進するが、例えばコスト面を考えると太陽光発電は現時点で家庭用電力料金と比較して約2～3倍と割高なことなど課題についても詳細に述べられました。

このような各種のエネルギー政策も進められているが、気候変動枠組み条約の京都議定書で決められた90年比6%CO₂削減の目標達成は、かなり厳しいものがあると思われます。

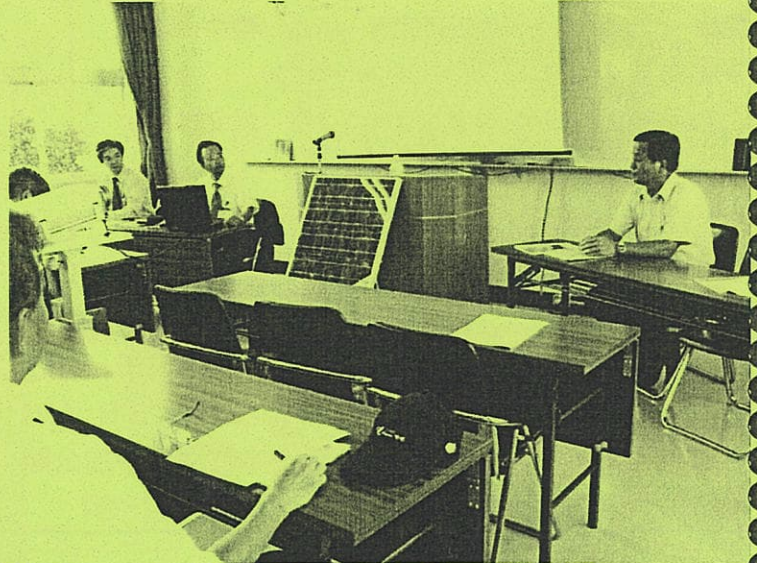
（応援隊 溝口 章宏）

この研修会の今後のスケジュールは、9月9日「ヒートポンプ給湯器や省エネ家電製品等」、9月25日「オール電化のメリット、デメリット」、10月7日「ESCO事業の概要」、10月28日「新エネルギー導入の補助金制度や先進的事例」の話で開催されます。

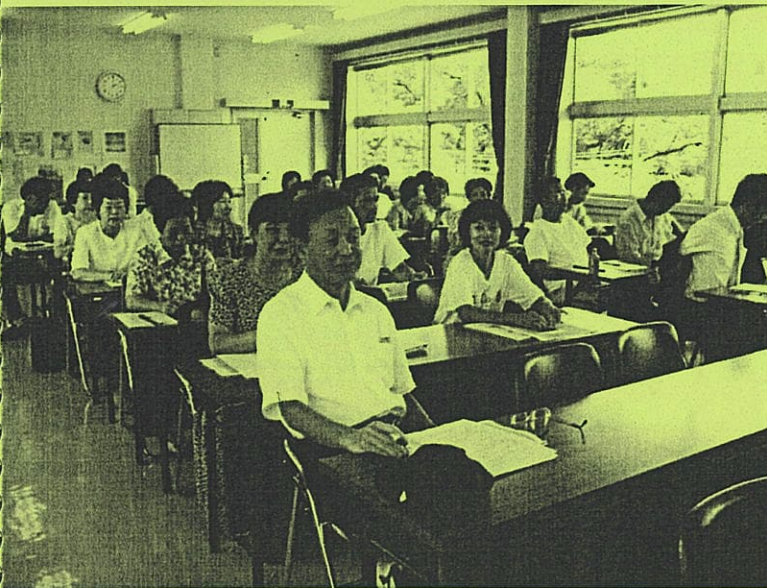
上記の研修会の開催場所は、県立姫路生活科学センター集会室です。

11月13日には「風力発電施設やバイオマス関連施設の見学会」が予定されています。

参加ご希望の方は、中播磨県民局環境課 へお問い合わせ下さい。



《第2回太陽光電池の研修会》



☆ 県立姫路生活科学センターからのお知らせ ☆

消費者セミナー開催

「環境に優しい生活～炊事・洗濯の洗剤を考える～」
講師 コープこうべ生活研究所 所長 櫻井 啓吉
平成15年9月11日(木) 13:30～15:30
県立姫路生活科学センター 2階 集会室

ペーパーリサイクル講習会

「紙のリサイクルの現状と課題」
講師 (財)古紙再生促進センター 広瀬 和彦
平成15年10月22日(水) 13:30～15:30
県立姫路生活科学センター 2階 集会室

第15回ふれあいの祭典「さわやか環境まつり」

(ひょうごエコフェスティバル2003)

平成15年10月4日(土)・5日(日) 10:00～16:00
姫路市本町「大手前公園」南側

～携帯電話の紛失・故障などのトラブル～

携帯電話の契約者数が年々増加し、今年3月末には約7600万台に達しています。

それにつれて、携帯電話の盗難・紛失・故障などによるトラブルも多くなっています。

①『酔っぱらって帰宅。気がついたら携帯電話がなくなっていた』ケース

紛失した携帯電話をだれかに拾われて、勝手に使用されてしまっは大変です。高額な使用料金を請求されるおそれもあります。また、携帯電話には登録した友人の電話番号や、メールアドレスなど、大切な個人情報がたくさんはいつています。悪用されれば、あなただけではなく友人にまで迷惑がかかってしまいます。紛失に気がついた時点ですぐに契約の携帯電話会社に回線利用の一時中止を届けましょう。電話会社の多くが、24時間体制で受け付けています。併せて、警察にも届け出ることをお忘れなく！

②『海水浴でうっかり携帯電話を海に落下させてしまった』ケース

携帯電話を濡らしたり強い衝撃を与えると、故障の原因になります。また、車のエアコンの吹き出し口付近に放置したり、浴室など湿度の高い場所で使用すると、電話機内で結露を生じて故障することがあります。修理費用は補償期間内であっても、有償になる場合もありますので、くれぐれもご注意ください。

☆ センターをご利用いただける時間 ☆

利用時間	消費生活相談	9:00～12:00 13:00～16:00
	食の安全・安心相談	9:00～12:00 13:00～17:15
休館日	土曜・日曜・祝祭日・年末年始	

**中播磨地域でがんばっているグループ
がんばっている人・いい話を**

生活創造しんぶんの紙面でご紹介します。自薦他薦は問いません。
10月10日までに原稿を郵便・FAX・Eメールでお寄せください。

しんぶんについてのお便り・お問い合わせ
姫路市新在家本町1丁目1番22号
県立姫路生活科学センター 玉田